

平成30年度 御幸小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心をもった児童の育成を目指す。

- 素直で、思いやりのある子・・・やさしく
- 自ら考え、進んで学習する子・・・かしこく
- 健康で、ねばり強い子・・・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【めざす学校像】 <一人一人が いきいきと 輝く 御幸小>

- ・ 子供たちが毎朝早く学校に行き、友達や先生と一緒に、勉強や運動をしたいと思える学校
- ・ 教職員が職場の仲間と一緒に、子供たちのために実践と研修に励む学校
- ・ 保護者や地域住民と一緒に、地域の学校を誇りに思い、進んで手伝いたくなるような学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

1 豊かな心の育成（やさしく）

- ① 安全な学校生活を送るためのきまりやマナーを守る意識を高める。
- ② いじめのない学校を目指し、いじめの早期発見・解決に努める。
- ③ 挨拶に対する意識向上を目指す。
- ④ 時と場に応じた正しい言葉遣いを図る。
- ⑤ 集団生活の中で話の聞き方の基本の習得を図る。

2 確かな学力の向上（かしこく）

- ① 分かる授業、きめ細やかな指導の実践に努める。
- ② 基礎学力の定着を図る。
- ③ 主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- ④ 読書活動の積極的な推進を図り、読解力の向上を図る。

3 健康で安全な生活（たくましく）

- ① 体を動かす心地よさを知り、運動への意識づけを図る。
- ② 体力の向上を図る。
- ③ 食へ意識・意欲を高める。
- ④ 登下校の安全意識を高める。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

【テーマ】自立 ～よりよい判断をし、学習や学校生活に意欲をもって取り組む子供の育成～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・ 学ぶことの楽しさが実感できる授業実践と授業力の向上を目指すとともに、道徳教育を通して、豊かな心と自主性を育む教育の推進に努める。
- ・ 行事の精選や諸計画の見直し、業務の適正化を図り、児童と向き合う時間や教師の研修時間の確保に努め、より良い学級経営、教科経営の推進を図る。
- 家庭や地域、鬼怒地域学校園との連携を深め、地域人材の支援を得た体験活動を重視し、未来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する。

【学習指導】

- ・ わかる授業、きめ細やかな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- ・ 主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- ・ 読解力向上のために、読書活動の積極的な推進を図る。

【児童生徒指導】

- ・ きまりを守り、あいさつや正しい言葉づかいができる児童を育成する。
- ・ 豊かな心（やさしさ）を持った児童を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 運動や健康に関心を持ち、自ら進んで体力を高めていこうとする児童を育成する。
- ・ 教科体育や教科外体育を通して、体力・技能の向上を目指す。
- ・ 給食を中心に食育を推進し、食を大切に作る心を育成する。
- ・ 地域や関係機関の協力を得て、児童の安全確保に万全を期する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
 ※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ①「私は今の学校が好きです」 ⇒ <u>児童肯定的回答 90%以上</u> ②「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」 ⇒ <u>教職員肯定的回答 90%以上</u>	①互いのよさを認め合い、高め合う学級づくりを推進する。 ・Q-U 調査を活用し、非承認群の児童への個別指導を行い、児童の所属意識を高める。 ・クラス共遊の時間を学級活動や朝の会等での話し合い活動に取り入れ、月1回実施し、仲間づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・児童は 91.0%、教職員は 100%であり、ともに指標を上回った。 ・児童への個別指導や、学級毎の取り組みが効果をあげたものと考えられる。 【次年度の方針】 ・昨年度の肯定的回答率と比較しても安定的に推移しており、引き続き今年度と同様の取り組みを継続していく。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 ①「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒ <u>児童肯定的回答 90%以上</u> ②「教員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒ <u>教職員肯定的回答 90%以上</u>	①「わかる」授業の継続指導 目標の板書の定着を図り、振り返りでの児童の理解度をチェックする。 ・授業終末で、感想を述べたり、まとめの豆テストをしたりして、児童の理解度を確認する。 ・宇小教研所属部会等での専門的な情報を取り入れ、授業力向上のために、授業公開を計画的に行う。	B	【達成状況】 ・児童は 98.1%、教職員は 96.0%であり、ともに指標を上回った。 ・意識的な理解度の確認とそれに基づく指導が有効であったと考えられる。 【次年度の方針】 ・児童の肯定的回答率は昨年と同様であるが、教職員の自己評価が4%低下している。微減ではあるが、今年度の取り組みを意識的に継続しつつ、来年度以降の推移を見守る必要がある。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って安全な学校生活をしている。 【数値指標】 ①「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒ <u>児童肯定的回答 85%以上</u>	①安全な学校生活を送るためにきまりやマナーを守る意識を高める。 ・児童指導委員会を毎月の職員会議の最後に開催する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は目標指標 (85.0%) を 0.4%上回った。 ・児童指導委員会で日常における指導の問題点を共有し、改善するための方策を検討した。 ・児童指導委員会を毎月職員会議の最後に開催し、情報を共有した。 【次年度の方針】 ・安全な学校生活のためのきまりやマナーを教職員で共通理解を図り、指導を統一する。 ・常時、指導について共有する場を設ける。
	A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒ <u>児童肯定的回答 85%以上</u>	①教材研究を共有し、予測されるつまずきへの支援の手立てを工夫して、きめ細やかな指導の実践に努める。 ②個に応じた指導の充実を図り、一人一人の達成感や成就感を高める。 ・レベルアップ教室の充実 時間の確保（週2回程度） 指導者を増やす 利用する児童の厳選・固定化	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 97.2%と指標を上回った。 ・習熟度別少人数指導を3年生から6年生まで実施し、個に応じた指導に努めてきた。 ・一人一授業、ゲリラ研修を実施し、教職員の授業力向上の研修を図ってきた。 【次年度の方針】 ・レベルアップ教室の充実を図る。

<p>A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「先生は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童員肯定的回答 90%以上 ⇒教職員肯定的回答 90%以上</p> <p>②「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① いじめのない学校を目指し、いじめの早期発見、早期解決に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の授業参観で行われる道徳の授業を全クラス「いじめ」をテーマに実施する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員、地域の肯定的回答が 90%以上。保護者の肯定的回答も昨年に比べ上がったが目標指数には 0.5%及ばなかった。 ・定期的ないじめの調査の実施、学年による情報発信を行ってきたが、保護者の肯定的回答が未だ目標指数まで達していない。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観時に「いじめ防止」に関するテーマをとりあげる。 ・いじめゼロ月間で実施したことを学年だよりに記載し、情報発信を強化する。
<p>A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「学校の日課、授業、行事などは適切に実施されている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学校行事の計画的な実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館プールの工事の進捗状況に合わせた着実な教科体育・特別活動の時間履修ができるようにする。 ・外部団体を活用した交流授業を充実させるように努める。 ※伝統文化交流（6年） ※クボタ工場（5年） 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は 94.4%であり、指標を上回った。 ・本年度は工事等で教育活動に制約があったにもかかわらず、計画的な教育活動に心がけた結果、高い肯定的回答率であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は工事による制約がさらに大きくなることが予想されるので、教育課程については作成、実施ともにより計画的かつ柔軟に対処する必要がある。
<p>A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民肯定的回答 90%以上</p>	<p>①情報発信の内容の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧項目を再検討し、学校・保護者・地域にとって必要な情報公開を推進する。 ・学年だより等の内容を検討し、児童の日常の活動の様子を伝える工夫を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は 93.8%、地域住民は 100%の肯定的回答率であり、指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の広報活動が効果を発揮しているものと思われるので、次年度も引き続き取り組んでいく。
<p>A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>①地域協議会学校教育支援部会との連携を強化し、授業や行事での適切な支援を受けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務主任が地域協議会コーディネーターと連絡調整を図り、適切な指導ができるようにする。 ※体力テスト ※ミシンボランティア ・体育館使用に代わる施設の利用を探り、教育活動が効果的に実践できるようにする。 ※コミュニティーセンター 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答率は 88.5%であり、指標を上回った。なお、指標としては設定していないが、地域住民の肯定的回答率は 100%、児童は 92.9%であった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みが、保護者、地域住民、児童から幅広く肯定的に受け止められているものと考えられるので、次年度も引き続き取り組んでいく。

<p>A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「学校は荷物や備品が整理整頓されるなど学習にふさわしい環境である」 ⇒保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>①季節感や児童の成長・学習の成果が見える掲示物を工夫したり、清掃指導の充実や校内緑化の推進を図ったりするなど、よりよい環境づくりに努める。</p> <p>②日常的に英語に触れる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英単語を児童の目の触れるところに掲示 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答 90.5%と数値目標を上回った。 ・児童会（児童）主体の季節感が見られる掲示物が掲示されていて、よりよい環境づくりに取り組むことができた。 ・教室や特別教室・資料室の環境整備や学習効果や学習の成果が見られる掲示など、学校全体で取り組んだ。しかし、英語に触れる環境づくりについては、課題が見られる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育を含め、ICT機器の活用方法について、職員研修を充実し、使用できるようにしていく。
<p>A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 ⇒保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校だよりやホームページ、校内掲示により幅広い広報活動を行い、小中一貫教育の取組の様子を伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の交流活動を学年だよりに掲載せ、保護者に広報する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標として設定した保護者の肯定的回答率は 93.3%であり、指標を達成するとともに、昨年度より 4.3 ポイント上昇した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動に力を入れた結果、地域学校園の取り組みが保護者に広く認知されたものと思われる。次年度も引き続き取り組み状況の周知に努めていく。
<p>A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>① 多様な専門性を有するスタッフの活用により教員の業務が縮減されている。 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 教職員は、養護教諭・栄養士・司書・かがやきルーム指導員・ALT等、特別な専門性を有するスタッフからの知識・情報の聴取や連携に務める</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率が 64.0%と、指標を下回るとともに、市平均回答率をも 10 ポイント近く下回る結果となった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A12 では肯定的回答が高いことから、職務上の連絡調整や役割分担は円滑であると考えられる。しかし「多様な専門性を有するスタッフ」の職種や職務内容について、教職員の認識が不足している面があるので、周知を図っていく。
<p>A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>① 教員は多様な専門性を有するスタッフと円滑なコミュニケーションが図られている。 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① すべての教職員は、多様な専門性を有するスタッフと日常的なコミュニケーションを心がける。特に、管理職や担当職員（当該スタッフに関わる教科領域の主任等）は、随時情報交換を行い、連絡調整に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答率は 96.0%であり、指標を達成した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A11 の達成状況とは対照的な結果となったが、前問で分析した通り、情報交換や連絡調整は十分行われていると考えられる。次年度も引き続き密接なコミュニケーションに努めていく。
<p>教育活動の状況</p> <p>A13 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、あいさつをしている」 ⇒児童肯定的回答 85%以上 ⇒保護者肯定的回答 75%以上</p>	<p>①あいさつに対する意識向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級で長期休業明けにあいさつに関するロールプレイングを実施する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、教職員の肯定的回答は高いが、地域、保護者の肯定的回答が低くなっている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員から積極的に挨拶をする。 ・あいさつ運動にできるだけ多くの児童が関わられるようにする。

<p>A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>①時と場に応じた言葉づかいができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中は「〇〇さん」と名前を呼ぶよう指導する。 年度の初めにクラスで時と場に応じた言葉づかいを指導する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員ともに目標指数を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時と場合に応じた言葉遣いの習慣化を図る。 言葉遣いの指導の充実。 <p>B</p>
<p>B1 集団生活の中で教師や友達の話に耳を傾け、気持ちを集中させることができる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、朝会や集会等、教師や友達の話に耳を傾け、しっかりと聞いている」</p> <p>⇒児童の肯定的回答90%以上</p>	<p>①集団生活の中で話の聞き方の基本の習得を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校集会や学年集会等の集まる場面では、教室からの移動から静かにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答が90%を超えている。 全体で集まる際のきまりについて、教職員全体で共通理解を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団生活の中で、基本的な話の定着を図る。 集会時のきまりの徹底化。 <p>B</p>
<p>A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」</p> <p>⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①休み時間に運動する機会を設けることで、運動する意識づけを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月に1回程度、スポーツウィークを設ける。 <p>②体育の授業に補助運動・補強運動に取り組む時間を設けることで、体力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時に、サーキットトレーニングに取り組みさせる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が91.7%となり、数値指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> より一層、運動への意識を高めるために、外遊びの日を設けることで、運動する習慣を身に付けられるようにしていく。 <p>B</p>
<p>健康・体力</p> <p>A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、好き嫌いなく給食(食事)を食べている(嫌いなものでも一口は食べている)」</p> <p>⇒児童肯定的回答 85%以上 ⇒保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>①給食指導の時間の見直しをすることを通し、児童の食への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食についての情報交換をもとに、指導について共通理解を図る。(年度当初に周知・確認) 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者の肯定的回答は、それぞれ92.0%、82.2%と目標指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食指導については、今年度同様、指導に関する共通理解事項を確認し、円滑に進められるようにする。また、栄養士が必要に応じて学級で指導に当たることで給食指導の充実を図る。 <p>B</p>
<p>B2 学校は、児童の安全な登下校の実施に取り組んでいる</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「学校は児童の安全な登下校の実施に努めている」</p> <p>⇒保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>①巡回の方法を見直すことで、児童が安全に登下校できるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一斉下校時の巡回を徹底する。(当番表の作成) 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の肯定的回答が82.2%となり、数値指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値指標は上回ったものの、下校の仕方に関しては課題もあるため、来年度は、さらに安全な登下校の実施に努めるために、機会をとらえて児童に対する指導を行っていく。 <p>B</p>

学 習 等	<p>A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童（生徒）は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」</p> <p>⇒児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①授業ではペアやグループ、一斉学習などねらいに応じた適切な学習形態での学び合いの場を設定する。</p> <p>②主体的・対話的な深い学びの具現化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は92.0%と数値目標を上回った。 ・ねらいに応じた適切な学習形態での学び合いの場を設定することで、児童も自信を持って学習に取り組むようになっている。 ・「主体的・対話的で深い学び」について研究授業や提案講座を計画的に実施し、校内研修の充実を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに焦点を絞った議論ができるような、校内研修の具体的方策を提示する。
	<p>A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」</p> <p>⇒児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①年2回(6・10月)学習強化月間を設け、学習習慣定着への取り組みを中心に「相手を見て最後までよく聞き考える」態度の育成を図る</p> <p>②学習に関する情報交換をし、支援の必要な児童への個別対応を組織的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換の場の設定 ・レベルアップ教室・習熟度別少人数指導・かがやき教室の活用と充実 	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は84.4%で、数値目標を若干下回った。 ・学習習慣の定着や「相手を見て最後までよく聞き考える」態度など、達成状況に課題が見られる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの学習状況の把握をし、組織的に対応していけるよう、レベルアップ教室、習熟度別少人数指導、かがやき教室の担当職員と情報交換をする時間を取るようにする。
	<p>A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>① 児童は地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>⇒児童の肯定的回答 70%以上</p> <p>⇒地域住民の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 地域の活動や行事について、児童・保護者に対して、積極的に情報提供する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答率は84.3%、地域住民は71.4%であり、ともに指標を上回った。なお、保護者は指標として設定していないが、65.0%にとどまった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域住民、保護者として、「ボランティア活動」を重視するか、「行事」を重視するかで認識に差がある可能性がある。学校では引き続き地域と連携して情報の提供に努めていく。

<p>B3 学校全体で読書活動を積極的に推進している</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は様々なジャンルの本を楽しみながら読んでいる」 ⇒児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①読書カードの活用や学年だより、図書館だより等での呼びかけで、家庭での読書を進めていく。</p> <p>② 図書室利用を増やすために多様なジャンルの本にふれる機会をつくったり、読解力の向上を図ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間ドリルの活用 ・司書教諭の活用 読み聞かせ ブックトーク 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は90.1%と指標を上回った。 ・月・金曜の朝の貸し出しにより、読書に対する興味・関心の向上や読書量の増加など、成果が見られた。しかし、昨年度より利用者が減り、貸し出しの冊数においては個人差が見られた。 ・読書まつりなどの図書のイベントにより、多様なジャンルの本に触れる機会が増え、本への興味・関心を高めることができた。 ・読書カードの活用は、取り組みに差が見られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書やクラス貸し出しの意義や価値について職員で共有し、読書指導や図書室利用を推進していく。
<p>B4 漢字や計算チャレンジに積極的に取り組んでいる</p> <p>【数値指標】</p> <p>①「児童は、漢字や計算チャレンジに積極的に取り組んでいる」 ⇒児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>① チャレンジテストを活用して、家庭学習の習慣化を図れるよう方策を立て取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテストに向けて自主的に復習に取り組めようにする。 ・各担当が家庭学習の習慣化を図るための手立てを講じ、情報交換をしながら進めるようにする。 ・保護者に対しても、協力を得られるよう啓発していく。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は86.5%で数値目標を上回った。 ・「家庭学習のすすめ」を学年に応じて分かりやすい内容に変更し、児童・保護者に向けて発信したことで、家庭学習の意識付けを図ることができた。 ・チャレンジテストに向けて計画的学習することができるように「がんばりカード」を活用したことで、家庭学習の習慣化を図ることができたとともに、目標をもって頑張ることができる児童も増えた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の底上げを図るために、具体的な方策を職員で共有する。

〔総合的な評価〕

【学校運営について】 A1・A2・A6・A7・A8・A10・A11・A12・A19

学校運営に関わる10項目については、1項目を除いて目標指標を達成した。A11（専門性を有するスタッフの活用）については、指標を達成できなかったのみならず、市平均を10ポイント近く下回っている。専門性を有するスタッフの職種や職務内容について教職員の理解が十分でない可能性があるため、情報共有の方法を工夫していく。

【生活指導について】 A3・A5・A13・A14・B1

設定された5項目のうち、3項目で目標指標を達成した。A5「いじめ防止の指導」については、取り組みの充実を図るとともに、広報活動に力を入れた結果、保護者・地域住民ともに昨年度より大幅に肯定的回答率が上昇したものの、保護者の目標指標の達成にはわずかに及ばなかった。児童の肯定率は高いことから、取り組みを継続するとともに、引き続き保護者への取り組み内容の周知に努めていく。A13「あいさつ」については、校内ではよくできているが、校外であいさつができていない様子が見られる。保護者・地域とも連携して、日常生活に活用できるよう指導していく必要がある。

【健康・安全指導について】 A15・A16・B2

健康・安全指導は、すべての項目で目標指標を達成した。とくにA16「栄養のバランスを考えた食事」の改善が著しい。ただし、A15「運動する習慣」については、保護者の肯定的回答率が著しく低い。教職員・地域住民・児童生徒はともに高く、市平均とも大きな乖離が見られないことから、学校での児童の様子について保護者への周知に力を入れる必要がある。

【学習指導について】 A4・A9・A17・A18・B3・B4

6項目のうち、5項目で目標指標を達成した。達成できなかったA18「学習への集中力」についても、わずかに指標に届かなかった状況である。ただし、指標を達成しているA9「学習環境」・A17「学習への意欲」も含め、児童の肯定的回答率が3%以上低下している。教職員・保護者・地域住民の回答は、向上もしくは横ばいであることから、児童の自己評価が厳しい傾向がある。教職員間の情報交換を強化し、指導すべきところはきめ細かく指導するとともに、児童への励ましや、できたことへの賞賛にも心がけていく。

6 学校関係者評価

アンケート結果及び総合的な評価を、平成31年2月21日に開催された御幸小学校地域協議会において説明し、以下の通りの意見を得た。

- 1 「総合的な評価」及び今後の方向性については基本的に了解した。
- 2 保護者の評価が低い項目については、自宅での様子だけで評価しているのではないかと。学校での児童の活動の様子につ

いて、一層力をいれて広報してほしい。

- 3 児童の自己評価が前年度より低下した項目が多い。A18「学習への集中力」のように、教職員の評価が高いにも関わらず児童の評価が低いものは原因の分析が必要である。
- 4 A5「いじめ防止の指導」に関する項目は、保護者の肯定的回答率が目標指標に達していない。さらなる高率を目指す必要があるのではないか。
- 5「肯定的回答率」として一括されているが、「そう思う」と「まあ思う」の比率が変化しているのではないか。今後は、その比率の年度ごとの変化にも留意していく必要がある。
- 6 新規に設定された設問について肯定的回答率が目立って低いものがある。設問の意図が伝わっていない恐れがあるのではないか。
- 7 学校評価とは直接の関係はないが、全国的に度々児童虐待事件が発生しているので、特に不登校傾向のある児童については、学校としても関係機関とも連携し、安否確認等に配慮してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

学校関係者評価の結果、各項目に関する次年度の取組と、総合的な評価の方向性については、基本的に了承されたため、学校としては上記の方針に沿って次年度の教育活動に取り組んでいきたい。

なお、学校関係者評価を参酌し以下の点を留意事項としたい。

- 1 保護者の肯定的回答が低い項目については、学校の教育活動や地域における児童の活動について、保護者への周知が浸透していない側面がある。本年度も周知については力を入れた結果肯定的回答率が上昇した項目もあるので、来年度も工夫を加えながら広報活動に取り組んでいきたい。
- 2 児童の肯定的回答率が低下している項目が過半数を超えているが、数値的にはわずかな低下である。学校としては、本年度低下した事実にも留意しつつ教育活動に取り組み、次年度以降の分析にあたっては、単年度の変化のみならず、複数年度の変遷にも配慮する必要がある。
- 3 いじめ防止の重要性については言うまでもないが、学校関係者評価で指摘された保護者の評価が低い点については、A5の設問は、「いじめ防止の重要性の認識」についてではなく、「いじめ防止教育の取組状況の認知」である点に留意する必要がある。したがって児童の肯定的回答率が高く、保護者のそれが低いのは、取組状況の問題というよりも周知方法の問題と考えられる。いじめ防止の指導について手を緩めてはならないのは勿論であるが、1で記した通り、広報活動にも注力していきたい。
- 4 今年度新設された質問項目については、経年比較が不可能であるため分析が困難であるが、特にA11は市平均値と比較しても肯定的回答率が低い。教職員との意思疎通を通じて問題点を探るとともに、必要に応じて設問の内容を丁寧に説明する必要がある。
- 5 児童への指導に関しては、学校のみでの取組では限界がある項目もあるので、広報活動を通じて児童の実態を保護者・地域に周知し、連携を図っていく。